

若者が夢を持てる沖縄の創造に向けて

『感動産業クラスター構想』という名の新たな道について

3つの感動産業クラスターを柱とする地域活性化

沖縄の現状を取り巻く、巨大な在外資本による観光産業、交付金・補助金に依存した公共事業、米国主導の基地経済といった呪縛から脱却し、若者自らが、未来につながる自立的な経済の芽を育て、沖縄を中心とするアジア経済交易圏を確立する。そのために必要な感動産業を以下に提起する。(『感動産業』とは僕の造語で、文化を基調として全ての仕事のジャンルの繋げていく目線を持つことであり、音楽や芸能に加えマラソンや空手・アウトドアレクリエーションなど、沖縄の知的財産及び文化的資源を活かした、新たな産業の新機軸、『感動体験型産業』の略である。)

1) 沖縄固有の歴史と文化に立脚した、感動的な知的財産創造事業の育成と支援

韓国政府主導による積極的な自国の映画・音楽産業の規制緩和措置および、若手の育成により、ハングル文化圏が日本を含むアジア全域に広がり、それにともなうソフトウェアによる知的財産がもたらした外貨収益は、若者の雇用増進を推し進め、韓国経済の新たな収益源として確立された。省みれば、韓国と非常に良く似たポテンシャルを持つ沖縄は、その潜在的可能性を眠らせたまま、新たな文化立県としての経済的胎動を待ち望んでいる。

他方、青少年による大航海時代のグスク文化を背景とする創作舞台などが数多く誕生し、沖縄方言の再認識なども影響し、沖縄固有の歴史と文化に立脚した、世界に通用する知的財産(映画・音楽・舞台など)の育成と支援が求められている。これらに意欲を持つ若者への投資は、いずれ沖縄の若者の雇用増進を推し進め、韓流ブームならぬ琉流ブームとして、沖縄経済の新たな収益源となることが期待される。

2) 地域と家庭の共同作業による、青少年のための感動的な沖縄型社会教育事業の育成と支援

小さな政府を目指す国家政策により、旧来の市町村を枠組みとする地域社会や経済が流動化している。また携帯電話などの利便性が加速化し、沖縄の地域的、社会的なアイデンティティーが希薄化している。

「沖縄とは何か」「沖縄はどう生きるべきか」といった基本理念について、地域社会、家庭生活の中で積極的に語り、創る作業が枯渇している今、ウチナンチュとしてのパワーを結集することに無理がある。

特に少子化が進む都市部において、地域社会の空洞化は避けられず、コミュニティーの減った沖縄に生まれ育った若者に、沖縄の心豊かな未来が見えないのが現状である。

逆に、空洞化した空間を利用して、24時間化した都市型社会に見合った、新たなコミュニティーを模索する動きも盛んである。沖縄は、既存の学校教育では補完できない、新しい機会を創出する段階にある。豊富な社会経験を持つ団塊世代の知恵と若い世代の交流、逆に、豊富なアイデアや想像力にあふれる若い世代と団塊世代の交流など、地域社会が受け皿となって、多くの社会教育事業が立ち上がろうとしている。

新たなコミュニティーづくりを目的とした、沖縄型社会教育事業の育成と支援が強く求め

られている。

3) 離島を含む周辺地域における、環境重視の感動的な資源循環型産業の育成と支援

インターネットなどの情報流通の発達と冷凍冷蔵技術による物流システムの発達により、農業、漁業などに従事する若者たちの参加機会は増加傾向にある。限りある資源の活用と、食に対する安全意識の高まる中、質の高い生産物や情報開示が求められ、その従事者にたいする教育が課題となっている。

地産地消といったシステムや有機低農薬などの環境保全は、個人ではなく地域社会で取り組むべき課題であり、生活基盤の安定化、継続するコミュニティーの創設などが求められる。特に離島を含む周辺地域においては、従来の農業・漁業体制だけでは補完しえない、新たな環境重視の感動的な資源循環型産業の育成と支援が求められている。

●おきなわ 21 世紀ビジョン懇話会資料

平田資料-2

<ビジョン策定のコンセプト>

1. ビジョンは「シンプル (解りやすい)」であるべきだ。
2. ビジョンは「クール (格好良い)」であるべきだ。
3. ビジョンは係わる全てが「ハピネス (幸せの実感)」であるべきだ。

提案

シンプルでクールなビジョンを浸透させるため、名刺サイズの「県民意識向上カード」=「おきなわ 21 ビジョンクレド」を発行、配布。沖縄の県が目指すべき姿の『おきなわ理念』を、明確に示すことで県民一人ひとりの中の「おきなわ」を、喚起させ自覚させる一助とする。

例1) ホテルリッツカールトンの従業員誰もが持っている接客の心得「クレド」

例2) ディズニーランドでキャストが徹底され教えこまれている「4つの心得」
⇒いずれも、大事なことは「マニュアル化」していないということ。「精神」を示すものであり、「そうであるべき方向性」を示すものであること。

⇒その際、ビジョンの基礎を成す、ミッションステートメント (信条、使命) 構築には、多くの県民が参加することが重要課題であると思われる。「正しいことを言えば良いということではなく、誰がその正しいことをキチンと伝えるか」が重要なポイントの喚起させるイベントを組む事が大切。

自分なりに考えてみた<分野別ビジョンのキーワード>

【人財育成】

- * 視点は郷土、視野は世界のリーダーづくり
- * 「新たなグスク」を築城する。人が財 (たから) の「人財の城」づくり。
- * 「島哲学」という新しい「生き方、生き様」をコンセプトに据えた島づくり。

【観光】

- * お金を落としてくれる観光客ではなく、親戚付き合いのできる旅人づくり。
- * 等身大を見せる、「生き方、生き様」が魅力的な「島」「人」づくり。
- * 文化芸術体験に加えて、スポーツ、野外活動をも網羅した「感動体験型プラ

ン」づくり。

【文化】

- *文化・芸術のための人づくりではなく、人づくりのための文化・芸術。
- *文化的スイッチ（目線）をもった、公務員、社会人、地域リーダーづくり。

【教育】

- *「表現教育」や「感動体験」を主軸にした、おきなわ型教育のシステム構築。
- *「感動教育体験型産業」の創出。

【新産業】

- *感動体験型産業を軸にした「おきなわ知的財産新事業（おきなわニューコンテンツ産業）／感動産業クラスター構想」の創出。

【農業】

- *「南の島の『農』を極める」⇒「農民芸術概論」=新しい発想の展開の農業。
- *クール（格好良い）な、第一次産業へのアプローチづくり。